

新しい年号「令和」が始まり、今年度の研究がスタートしました。

中村小はこれまで、高知県教育委員会指定「教育課程拠点校」として、国語科を中心に9年間教育実践を重ね、児童の姿から検証を行いながら、授業改善に努めてきました。

今年度は、教育課程研究指定校事業（国立教育政策研究所 委託）として、積み上げてきた実践を継承しながらも、児童の課題克服に向けて新たな気持ちで研究を進めていきたいと思ひます。「チーム中村」みなさんどうかよろしくお祈ひします。

今年度最初の国語科・提案授業として、池谷先生（5年1組）に行っていました。授業と研協議の様子をお知らせします。本時は、3/7時間目です。

単元名 「物語の山場をとらえよう～山場交流会～」

教材名 「世界でいちばんやかましい音」

提案授業：5年1組 池谷康史 教諭

身に付けさせたい資質・能力： 叙述を基に、人物像や物語の全体像を想像しながら読む力

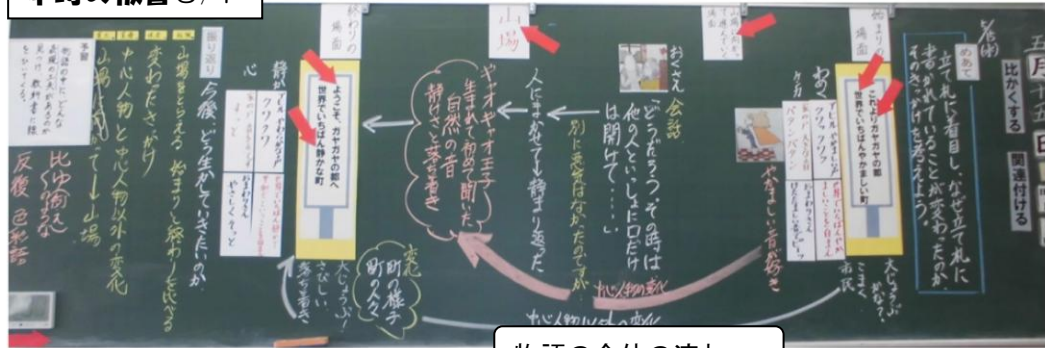
学習の流れ

- 5年生
「世界でいちばんやかましい音」
学習の流れ（7時間）
物語の山場をとらえよう
～山場交流会～
- 学習の流れ
- 1 ☆これまでの学習をもとに学習計画を立てよう。
・これからどんな力を身に付けたいか考える。
 - 2 ☆物語の構成を知り、物語全体を通して最も大きく変わったことについて考えよう。
 - 3
 - 4
 - 5 ・物語の基本的な構成を理解し、「山場」を見つける。
・物語の中で変化したものについて考える。
・物語のおもしろさのひみつをさぐる。
・クライマックスの一文について考える。
 - 6 ☆「山場交流会」をしよう。
 - 7 ・お気に入りの物語の最も大きく変わったことについて自分の考えをまとめて書く。

つけたい力を明確に

つけたい力
○物語の構成や山場で起きた変化をとらえ、自分の考えをまとめて書く力。

本時の板書3/7



物語の全体の流れ



教科書の文章から「きっかけだと思ふ」話し合い。
物語の全体を想像しながら読む姿を目指しています。



話し合ったことを全体でも伝えよう！

授業者のリフレクションシートより

再考したためあて 登場人物の会話や行動に着目し、なぜ立札に書かれていることが変わったのか、そのきっかけを考えよう。

主・対・深 叙述を基に話し合わせるのであれば、各グループに物語の全文を用意するといった手立てが必要であった。手立てがあることで、活発な話し合いが行われ、対話的な学びにつながった。

見・考 叙述・言葉に着目させるのであれば、児童全員が同じページを開き、しっかりおさえているか観察し、聞き流しや聞いているふりといったことがないようにしていく。

今回4つの視点で授業参観をし、グループで焦点化して研究協議を行い、全体共有しました。

1. 「資質・能力」を身に付けるための最適な言語活動であったか。

○きっかけを見つけ話し合うことで、全体像を想像しながら読む力を身に付けられる。

▼児童が本気になるための手立てが必要。（問い直しを生む発問、グループで同じものを見合える全文等）

2. 本時の目標が達成できたか。

○これまでの言葉の力を思い出させながら本時の目標に迫ろうとしていた。

○始まり場面と終わり場面の比較（町の様子の変化）から、変わったきっかけを考え話し合う本時の展開が良かった。

▼本時の目標達成を目指すめあては「立札に着目して」ではなく、国語科での着目ポイントに。（人物の行動、会話、様子 etc）

3. 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は実現していたか。それはどんな事実からか。

○本文を示しながらグループで話し合う児童の姿が見られた。

▼「分かりました」の反応では深まらず、友達同士もっと聞きあえる対話にしていく。

▼ノートに書いていない児童もいて、児童自身が学びをふり返ることができない。ノートに書くべきことを精選する。

4. 「言葉による見方・考え方」を働かせた児童の姿は見られたか。

▼ぼんやりはきっかけだと分かったと思うが、「ここ」「これ！」というものが言えていない。

▼きっかけだと考えた理由を言ったり、文章をつなげて考えたりする姿が見られなかった。



宗崎指導主事より（授業について）

まず、昨年度の池谷先生の指導案を見ながら授業改善（協議、児童の実態から単元名、単元計画の修正等）している箇所を全体で確認しました。

「山場（話のおもしろさ）」を見つけながら物語文を読んでいくことで、児童が『他の物語ではどこが山場かな？』『他の物語でも見つけてみたい！』と普段の読書意欲へと結びついていく。そして、その観点も持って今後読み進めていくようになる。今回、「きっかけを考えればお話のおもしろさが分かる！」ときっかけをもっと焦点化することが大事で、児童がむきになって話したり聞いたりするために、話し合う際、グループで話し合いのもと（全文を1枚つなげたもの等）を用意して、グループでの対話を成立させたい。

1/7時間目、主体的に発言している姿が幾度と見られました。本単元のキーワードでもある『山場』の言葉の意味を確認する場面では、「261Pに書いてます。」と事前に教科書を見ていたのか素早く反応する児童や「じゃあ、ごんぎつねは、最後うたれるところ？」とつぶやく児童もいて、これまでの物語をふり返りながら山場ってどこかな？と考えを巡らせていました。

最終7/7時間目～お気に入りの物語 山場交流会～では、グループでボードを使って交流（右写真）していました。各自が捉えた山場からクライマックスの1文を決めるという学習場面でした。「どの行動？」「まだ変化してないからその後やない？」など想像しながら読んで話し合っている姿が見られました。

池谷先生、提案授業としてトップバッターで授業を公開していただきありがとうございました。授業を参観し、協議していくことで、自らの実践に生かしていくことができます。

今年度の研究主題は「自分の考えを形成し、表現する力を高める国語科指導の在り方

—情報の扱い方と「書くこと」を関連させた単元構成の工夫—」です。

目の前の児童とともに学びを作り上げていきましょう！

